麦の穂

81
令和元年
10月10日発行

発行責任者　医療法人光臨会　理事長　荒木 攻

医療法人　光臨会
荒木脳神経外科病院
Araki Neurosurgical Hospital

第22回 日本臨床脳神経外科学会 in岡山

令和元年7月20日（土）・21日（日）の両日、岡山コンベンションセンター（岡山市）で「第22回 日本臨床脳神経外科学会 in岡山」が開催されました。医師とコメディカルがともに集まるこの学会には、例年当院から多職種で参加しています。本年は、診療部1演題、看護部3演題、リハビリテーション部4演題、その他の職種5演題の発表を行いました。開催場所は岡山と近く日帰りも可能で多数の職員が参加し、新たな知見や他施設の取り組みを学びました。

今回のテーマは、「地域包括ケアシステムの中での脳神経外科と多職種・他診療科との協業～心をひとつに～」でした。当院の理念である質の高いチーム医療の実践とともに、地域のなかでの多職種の連携を通じて地域医療に貢献する重要性を再認識いたしました。学会に参加した職員が学んだ「気づき」を日々の業務改善活動につなげ、地域との連携を強化しながら、質の高い医療を提供できるよう努力をして参ります。

院長　荒木　勇人

◆学会発表演題

Limbshakingをきたした内頸動脈狭窄･中大脳動脈閉塞症に対し血栓回収療法が奏功した1例	医　師	野坂　亮
急性期病棟におけるリハビリテーション看護の課題と方策	看護師	二島 良輔
脳卒中長急性期治療を受ける患者の身体拘束ゼロへの挑戦 ～身体拘束への意識改革にむけて看護師意識調査～	看護師	井手 七海
食嗜好に偏りのある摂食嚥下障害患者への食事支援 ～KTバランスチャートを用いた包括的視点での振り返り～	看護師	佐藤 理恵
当院におけるDI業務の再構築と副作用報告への効果	薬剤師	松下 永利子
当院のCSF flow 動態撮影による突発性正常圧水頭症（iNPH)診断の試み	放射線技師	林　孝幸
3TMRIにおける頚動脈の流速測定についての検討	放射線技師	佐々木 悠輔
退院直後から集中的に訪問リハビリを行い、家族の介護負担軽減と本人家族のQOL向上を図れた症例	理学療法士	板井　司
片麻痺患者に対し発症早期に装具採型を行った症例についての検討	理学療法士	岡田 千佳
高次脳機能障害を踏まえて食事環境の調整を行うことで常食を経口摂取可能となった重度球麻痺患者の一症例	言語聴覚士	和田 昇馬
脳卒中片麻痺患者の、機能改善への意欲、想いに着目して介入した症例 ～食事動作を通して～	作業療法士	下垣内 稔治
自宅退院を目標とした、排泄訓練の取り組み	介護福祉士	濱田 あゆみ
障害福祉サービスを利用し退院支援を行った一症例	ソーシャルワーカー	工藤 桃子

学会の様子

参加者の集合写真

もくじ

1. 第22回日本臨床脳神経外科学会 in岡山
2. 第22回日本臨床脳神経外科学会発表演題
   ・当院におけるDI業務の再構築と副作用報告への効果
   ・急性期病棟におけるリハビリテーション看護の課題と方策
3. 福利厚生～職員旅行～　／　健康増進コーナー～リハビリ体操～
4. 連携医療機関のご紹介 ――（奥田整形外科皮膚科医院）――
5. 広島ロボケアセンターを開設しました

第22回日本臨床脳神経外科学会発表演題

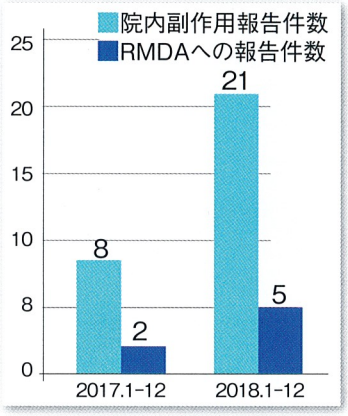
今回は薬剤部と看護部の演題発表をご紹介させていただきます。

◆当院におけるＤＩ業務の再構築と副作用報告への効果

発表者：薬剤部　松下　永利子

当院の薬剤部は、薬剤師5名（常勤）、薬剤助手1名（常勤）が勤務し、病棟薬剤業務実施加算1を算定しています。医薬品情報（DI）室担当薬剤師は1名で兼務です。2017年4月病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しましたが、ＤＩ業務が充実しているとは言えず、中でも院内発生副作用の収集、周知が不十分でした。病棟薬剤業務の質的向上の基盤となるDI業務を見直し、効率的かつ能動的に再構築し、見過ごされている副作用の潜在や、介入が不十分で報告せずに終わっている症例などを改善する必要があると考えました。まず、1.DI記録の改変、2.DIニュースの定期発行、3.DI担当と病棟担当薬剤師のカンファレンス回数増加、4.副作用（疑い）発生時から病棟担当薬剤師とともにモニタリングに介入する事としました。

DI記録は従来エクセルで作成していたものを、ファイルメーカーで作り替え、質問区分を９つのカテゴリーに分類し、検索しやすくし、ＤＩ担当薬剤師でなくても、病棟担当薬剤師が病棟で質問を受け、回答した場合も同様に記録してもらうようにしました。DIニュースは月１回定期発行し、その中に院内発生副作用情報も掲載することにしました。DI担当と病棟担当薬剤師とのカンファレンスは平均週1回実施し、薬疹疑いの場合、重症例に関しては皮膚科往診時に病棟担当薬剤師とともに可能な限り帯同し、DLST検査の実施、評価などから、被疑薬の特定、再投与防止策を実施していきました。これらの結果、院内副作用報告件数は8件／年でしたが、取組後は21件／年と増加し、副作用例には迅速かつ綿密に対応できたものが増加しました。今後は、DI業務時間の十分な確保と、さらなる効率化により、PMDAへの副作用報告数増加、DI内容のさらなる質的向上を目標に努めていきたいと思います。



◆急性期病棟におけるリハビリテーション看護の課題と方策

発表者：看護部　二島　良輔

脳卒中ガイドラインでは、組織化された多面的なリハビリテーションを行う専門病院に入院した患者は退院時の機能が良好であると報告されています。当院における急性期病棟の看護業務は多岐に渡っており、リハビリスタッフと連携したリハビリ看護（以下リハ看護）の継続が難しい現状があるのではないかと考え、課題と方策を検討しました。

まず、看護師にアンケート調査を行ったところ、リハ看護の重要性に対する理解が高いものの、現状はリハ看護ができていないと感じている割合が多いことが分かりました。この結果から、看護ケアを通じてリハ看護を行っているという認識は高くないことが推測されました。

今回、学習意欲の動機づけを表すARCSモデルを使用し、現状確認を行いました。

このARCSモデルとは注意（Attention）関連性（Relevance）自信（Confidence）満足感（Satisfaction）の4つの要素の頭文字に由来するもので、調査によって得られた当院の現状を当てはめたところ注意と関連性は高く、自信と満足感が低い傾向にあることが分かりました。その他、リハ看護に関心があるものの、繁雑な業務がゆえに専門分野に任せてしまっていることも判明しました。

この結果から、日常生活ケアそのものがリハ看護である事を再認識して看護計画に取り入れていく必要があると考えました。自信と満足感を高め、意欲を向上させるためにはリハ看護に関する意見交換や勉強会を行うことで多職種における意思疎通を図り、連携を強化することがリハ看護の向上させることに繋がり、その結果看護職における医療の質の向上へ繋げることが可能になるという結論に至りました。

福利厚生　～職員旅行～

令和元年７月７日、晴天のもと職員旅行で三次、世羅へ行ってきました。

９時に病院へ集合、職員家族も含め総勢28名（大人25名、子供３名）で出発。

まずは、今年の４月に出来たばかりの「三次もののけミュージアム」です。

博物館の説明を聞き、妖怪に関する展示を見たり、チームラボ★妖怪遊園地では自分達で色を塗った妖怪がスクリーンで動いたり、妖怪と一緒に撮影できるカメラなどあり子供たちも楽しめました。

次は三次ワイナリーにてお待ちかねのBBQ。広島和牛とワインをお腹いっぱい頂きました。目の前にある網でお肉を焼くのですが、話に夢中になり、焼き過ぎるなんて事もありましたが、とても美味しかったです。その後はワインやジュースの試飲をしながら、みんな目当てのお土産をたくさん買いました。

最後に平田観光農園にてプラムとさくらんぼ、各自好きな果物狩りを楽しみました。

BBQの後でお腹いっぱいでしたが、デザートは別腹。はしごに登って上の方の甘い果実を選んで食べました。

久しぶりの遠足気分で、いろんな体験が仕事仲間と出来た楽しい８時間の旅でした。

事務部　岡野利枝子

三次もののけミュージアムにて

平田観光農園にて

健康増進コーナー　～拡がる「いきいき百歳体操」～

健康寿命という言葉を存知でしょうか。介護を必要とせず、日常生活を自立して送れる期間を指す言葉です。高齢化の進展に伴い、要介護状態の高齢者の数が右肩上がりに増える中、国は健康寿命の延伸、介護予防の推進のため、住民運営の通いの場を整備しています。

この通いの場では、高知市が開発した「いきいき百歳体操」が行われており、これは錘を使った筋力運動が主体の体操となっています。座って膝を伸ばす運動や椅子からの立ち上がり等、関節に負荷をかけることなく、簡単にできる運動から構成されています。

近年の研究では、加齢によるものと考えられていた病気や虚弱状態が筋力低下と関係があり、高齢であっても定期的に行う筋力運動が、筋肉量を増やし、虚弱な状態を改善できると言われています。

当院は広島県から地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けており、その活動の一つとして、住民運営の通いの場の立ち上げや継続の支援をさせていただく機会があります。広島県では週1回活動している通いの場が1460ヵ所と広がっています。（令和元年6月現在）

その他にも健康寿命を延ばすためには栄養状態や口腔機能の維持、社会と繋がりを持ち続けることも重要です。

住民運営の通いの場については、お住まいの地域の地域包括支援センターにご相談ください。

リハビリテーション部　木村隼人

奥田整形外科皮膚科医院

住　　所：〒733-0841　広島市西区井口明神1丁目15番21号
T E L：082－277－2288
F A X：082－277－2386
診療科目：整形外科、リハビリテーション科、皮膚科
院　　長：奥田　晃章
診療時間：整形外科　　午前　9時～13時
　　午後15時～18時（木・土曜日は休診）
　　リハビリテーション科
　　午前　9時～13時
　　午後15時～18時（木・土曜日は休診）
　　皮膚科　　午前　9時～13時（月・水・金曜日は休診）

当院は昭和57年に父が開業し、私は平成21年から整形外科全般にわたる診療を行っています。専門は脊椎脊髄疾患で、長引く腰痛、手足のしびれや痛みなどお困りの方はお気軽にお越しください。
皮膚科もあり皮膚や爪のトラブルもご相談ください。入院可能な有床診療所という特徴を活かして、圧迫骨折など体動困難なケガ、手術後すぐに在宅復帰できない患者さまの受け入れも積極的に行っており、離床から社会復帰に至るまでケアします。リハビリは外傷などの急性疾患、スポーツ傷害、変形性関節症などの慢性疾患まで幅広い領域に対して理学療法士による専門的な運動療法を行っております。

荒木脳神経外科病院の先生方には、頭部外傷、頭蓋内病変など急変した患者さまをいつも快くお引き受け頂き大変ありがとうございます。またMRIやCTなど詳細な画像診断など日頃から大変お世話になっております。

今後も地域の方々の訴えに真摯に耳を傾け、誠実に対応したいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

院長　奥田　晃章先生

広島ロボケアセンターを開設しました

令和元年7月1日、荒木脳神経外科病院グループの株式会社シャレムが運営するトレーニング施設として、広島ロボケアセンター（以下当センター）を開設しました。当センターは、茨城県つくば市に本社があるCYBERDYNE株式会社が開発したロボットスーツHAL®（Hybrid Assistive Limb：以下HAL）を用いたNeuro HALFIT® を中心に、パーソナルトレーニングを提供する施設です。現在、ロボケアセンターは全国13ヶ所で展開され、当センターは国内9ヶ所目のセンターとなります。

HAL® とは、身体へ装着し、生体電位信号（人が運動を行う際に皮膚表面から検知される信号）を基に、装着者の身体動作を支援する世界初の装着型サイボーグです。HAL® は装着者の意志をリアルタイムに検知し、それに合わせ動作支援をすることが可能である為、装着者への良好な感覚刺激が脳へ情報として返され、良好な運動パターンの学習が実現可能となります。Neuro　HALFIT® とは、これらの治療原理の下、HAL® 等の最先端サイバニクス技術を活用したトレーニングの総称です。

Neuro　HALFIT® の対象は、脳卒中やその他疾病、交通事故等の後遺症により、日常生活に不自由を感じておられる方々をはじめ、将来、身体虚弱のリスクがある高齢者の方々までと多岐に渡ります。ご利用開始時には、利用者一人ひとりと話し合い、個別のニーズや希望を聴取させて頂き、その実現に向けた個々のトレーニングプログラムを計画・提供させて頂きます。

トレーナーは、グループ病院である荒木脳神経外科病院で医療技術や知識に精通し、HAL®使用に熟練した理学療法士等が務めるため、徹底したリスク管理の下に質の高いトレーニングを提供することが可能です。ご利用については、完全予約制の保険適応外のトレーニング施設となります。

広島ロボケアセンターは、「人の役に立ってこそ意味がある　ロボットスーツで未来を描く　ロボットスーツで未来が変わる」をモットーに、利用者の自己実現に向け全力でサポートをさせていただきます。ご興味お持ちの方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

住所：広島市西区庚午北2丁目16-4-102
（荒木脳神経外科病院より
宮島街道沿いに220mほど西方面）
電話：082-208-2442

広島ロボケアセンター　センター長　荒木　晶子

医療法人光臨会　理念

一. 皆様に安心していただける、全人的な医療と介護を目指します

荒木脳神経外科病院　理念

一. 脳神経外科としての専門性を軸に、幅広い診療体制で地域医療に貢献します
一. 急性期医療の中核病院として、高機能で質の高いチーム医療を行います

運営方針

1. 「医療の原点は救急である」
2. 快適な療養環境と接遇の提供
3. チーム医療の推進と相互啓発
4. 「医療と福祉の複合化」の推進

患者様の権利

医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院は、職員全員が次のような患者様の権利を尊重し、納得と同意に基づいた医療を行います

1. 個人の尊厳が守られる権利を尊重します
2. 最善かつ安全な医療を受ける権利を尊重します
3. 医療に関して知る権利を尊重します
4. 個人のプライバシーが守られる権利を尊重します
5. 自分自身の治療等について自分で決定する権利を尊重します
6. 自分自身の治療について他の医師の意見を聞く権利を尊重します
7. 苦情を申し立てる権利を尊重します

患者様の義務

1. 患者様には適切かつ安全な医療を受ける為、診療上必要な自らの情報を正確に伝える義務があります
2. 患者様にはお互いに快適な療養生活を受ける為に、定められた規則を守る義務があります。

外来担当医表

			月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初診(1診)	渋川	中原	沖	江本	太田	広大
		初再診(2診)	荒木(勇)	野坂	江本	沖	渋川	江本
		初再診(3診)	沖	太田	加納		荒木(勇)	
	午後	初再診	野坂	加納(1・3・5週) 沖(2・4週)	広大	加納	沖	広大
脳神経内科	午前	初再診(3診)				青木		
総合診療(内科・外科)	午前	初再診(4診)	野村	浅本	藤井	浅本	藤井	野村
	午後	初再診(4診)	藤井	浅本	野村	浅本	野村	野村
	午前	検査		浅本		野村 浅本		
	午後	検査		浅本	野村	浅本		
脳神経外科 消化器内科	午前	初再診(5診)		荒木理事長	渋川		荒木(勇)	井上

※井上名誉教授
第１土曜日　月１回

診察時間

◆完全予約制
午前９時～12時
(初診受付：午前11時30分迄)
午後３時～６時
(初診受付：午後　5時30分迄)

救急は24時間受付けております

医療法人光臨会

日本医療機能評価機構

荒木脳神経外科病院

〒733-0821　広島市西区庚午北２丁目8-7
TEL　082-272-1114　FAX　082-272-7048
E-mail　info@arakihp.jp
ホームページアドレス　http://www.arakihp.jp

荒木訪問リハビリテーション

〒733-0821　広島市西区庚午北２丁目8-7
TEL　082-527-1123　FAX　082-527-1127

デイサービス　あらき

〒733-0822　広島市西区庚午中２丁目11-15
TEL　082-507-6100

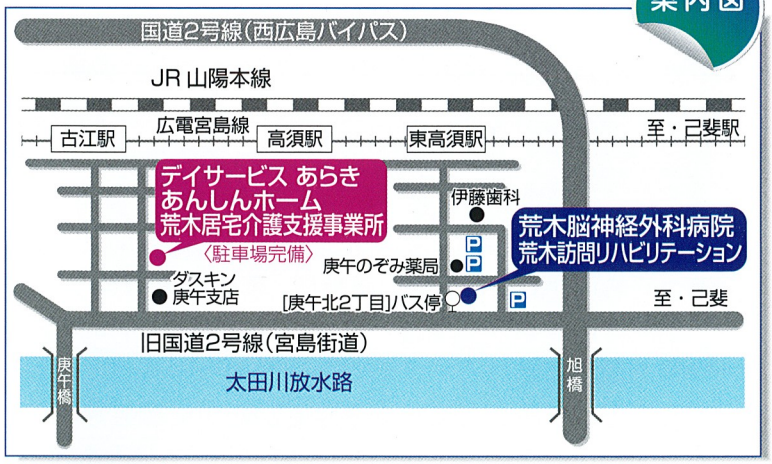
あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護施設)

〒733-0822　広島市西区庚午中２丁目11-15
TEL　082-507-6600

荒木居宅介護支援事業所

〒733-0822　広島市西区庚午中２丁目11-15
TEL　082-507-6300

案内図



交通案内

○自動車
西広島バイパス「庚午出口」より
宮島方向へ100m(宮島街道沿い)
○広島電鉄・宮島線／「東高須」下車 徒歩3分
○広島バス25号線　／「庚午北2丁目」バス停前

お知らせ

11月3日（日）、広島サンプラザの隣にあります西部埋立第五公園にて第35回西区民まつりが開催されます。例年通り当院も参加致しますので、是非ご来場くださいませ。